

施 策 名 (小項目)	国際交流・地域間交流の推進	コード	作成者	役職	企画課長
		03-04-12		氏名	岩崎 和久
				電話	64-1871
				このシート作成に要した時間	2.0 時間

この施策の アピール ポイント	韓国・オーストラリア・アメリカの都市と青少年の相互派遣交流を行い、国際感覚をもった人材の育成に努めています。
-----------------------	--

この施策の 平成29年度の 施政方針	国際交流・地域間交流の推進につきましては、文化交流協定や姉妹縁組に基づき、オーストラリアのクレア&ギルバートバレー町、韓国の蔚山（うるさん）広域市東区（とんく）及びアメリカ合衆国のメンローパーク市との青少年の相互訪問による交流を行い、次世代を担う子どもたちの国際的感覚を養ってまいります。また、今後は新たに焼き物を縁とした都市との友好交流も検討するなど、経済や文化分野での国際交流の推進にも努めてまいります。
--------------------------	--

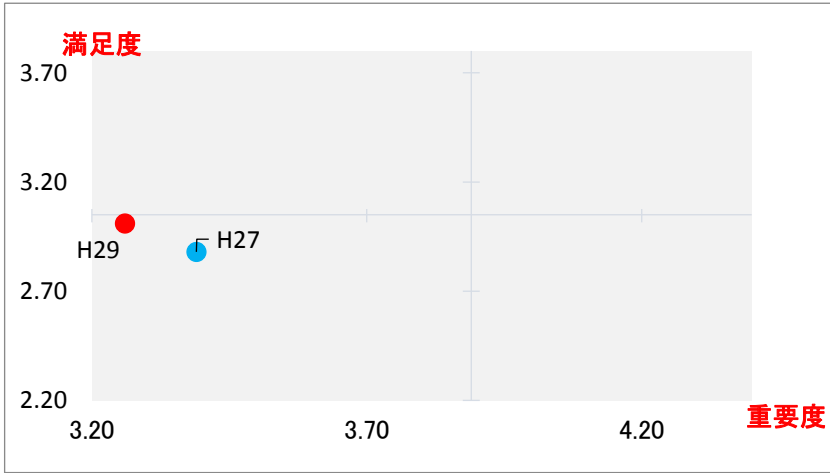
＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	03 協働「コミュニティ」
	基本計画（中項目）	13 国際交流・地域間交流の推進
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	市民の皆さん一人ひとりが、外国の文化や他の地域のことを理解し、同時に自分のまちの良さを再発見し、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。青少年期から国際感覚を身につけることにより、グローバルな視野を持った人材を育成します。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市は、平成2年にクレア&ギルバートバレー町（豪州）と姉妹縁組を、平成15年に蔚山（うるさん）広域市東区（とんく）文化院（韓国）と文化交流協定の締結、平成27年には東区庁と友好協力都市協定、メンローパーク市（米国）と文化交流協定を締結し、青少年の相互派遣を中心とする交流を行っており、市民の国際感覚の育成に努めています。 しかし、こうした交流は参加者とその家族に限定され、さらに一過性で終わってしまいがちなことから、継続して交流に関わっていける仕組みをつくり、交流の輪を広げていく取り組みが必要です。また、市民参加型の交流が必要ことから、本市の国際交流団体である備前市国際交流協会が自立して運営できるよう支援が必要です。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none">国際交流の充実国際交流団体の育成経済、文化交流の推進地域間交流の推進	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H27	H29
重要度（％）		3.39	3.26
満足度（％）		2.88	3.01

《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等 〔 調査対象でない施策は、市民の反応等 〕	前回調査時と比較すると、重要度は微減、満足度は微増となっている。 施策全体の平均値と比較すると、重要度は大幅に低く、国際交流に対する市民の関心度がまだまだ低いことがうかがえる。
--	---

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

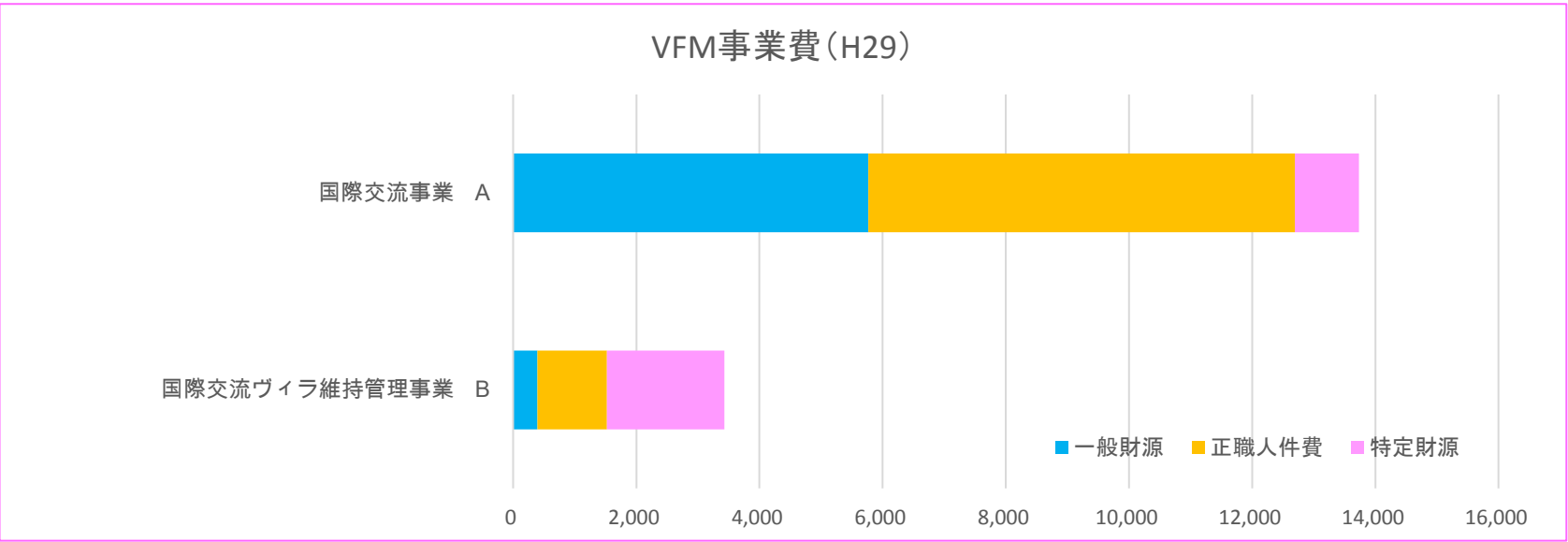
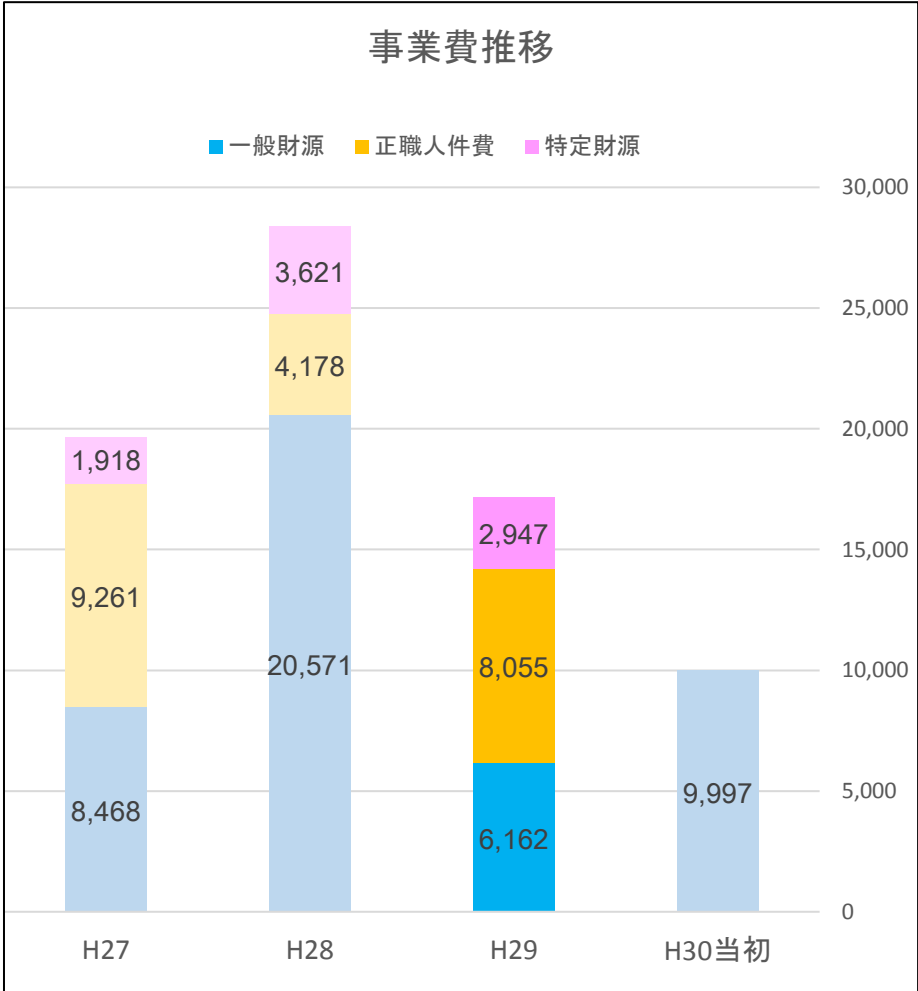
施策に対する成果指標名		単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H27	H28	H29			
成果指標	備前市国際交流協会会員数（個人・団体）	目標	人	120	150	180	国際交流への理解が深まり、会員数が増加	
		実績	人	85	189	192		H32 200
		達成率	％	70.8	53.3	106.7		H34 200
		ベンチマーク						— —
参考指標①	国際交流協会が主催する国際交流事業への参加者（相互派遣事業を除く）	目標	人				市国際交流協会が開催する国際交流事業への参加者数（各種講座等）	
		実績	人		350	654		H32 380
		達成率	％		0.0	0.0		H34 400
		ベンチマーク						— —
参考指標②	事業参加後、国際的視野の広がり率	目標	人				国際関係の進学、留学希望率（訪問事業参加者アンケート結果） H29アンケート未実施	
		実績	人		53			H32 60
		達成率	％		53.3			H34 70
		ベンチマーク						— —
参考指標③	八塔寺国際交流ヴィラ利用者数	目標	人	850	850	600	外国人の利用を増やすことにより、国際交流の気運を醸成	
		実績	人	537	560	553		H32 600
		達成率	％	63.2	65.9	92.2		H34 600
		ベンチマーク						— —
参考指標④		目標	人					
		実績	人					
		達成率	％					
		ベンチマーク						

⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

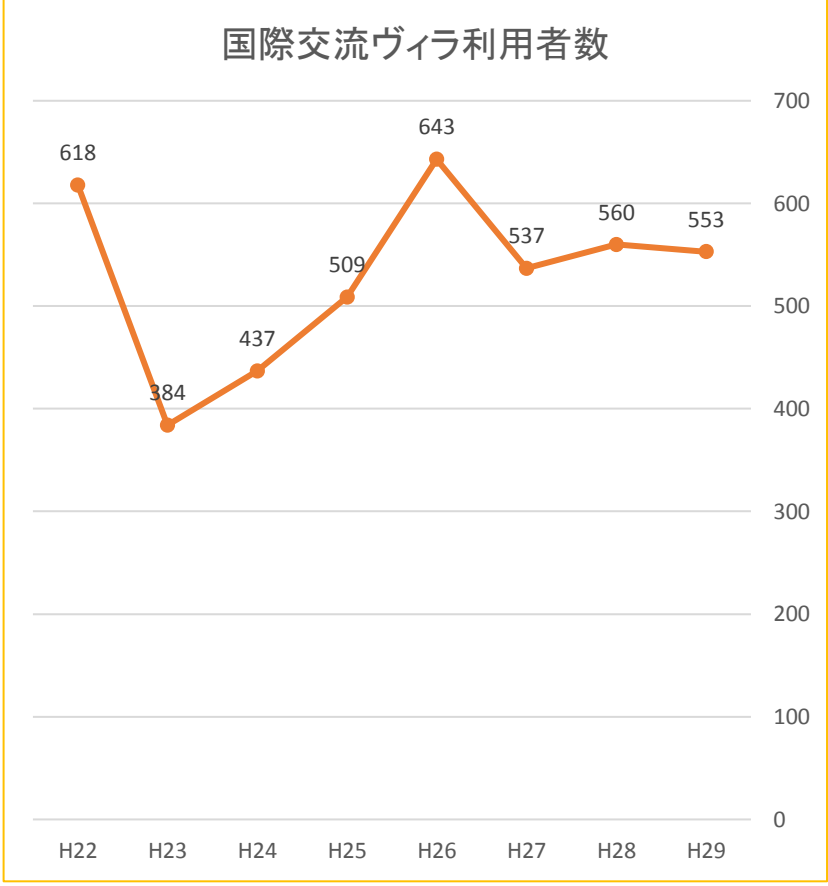
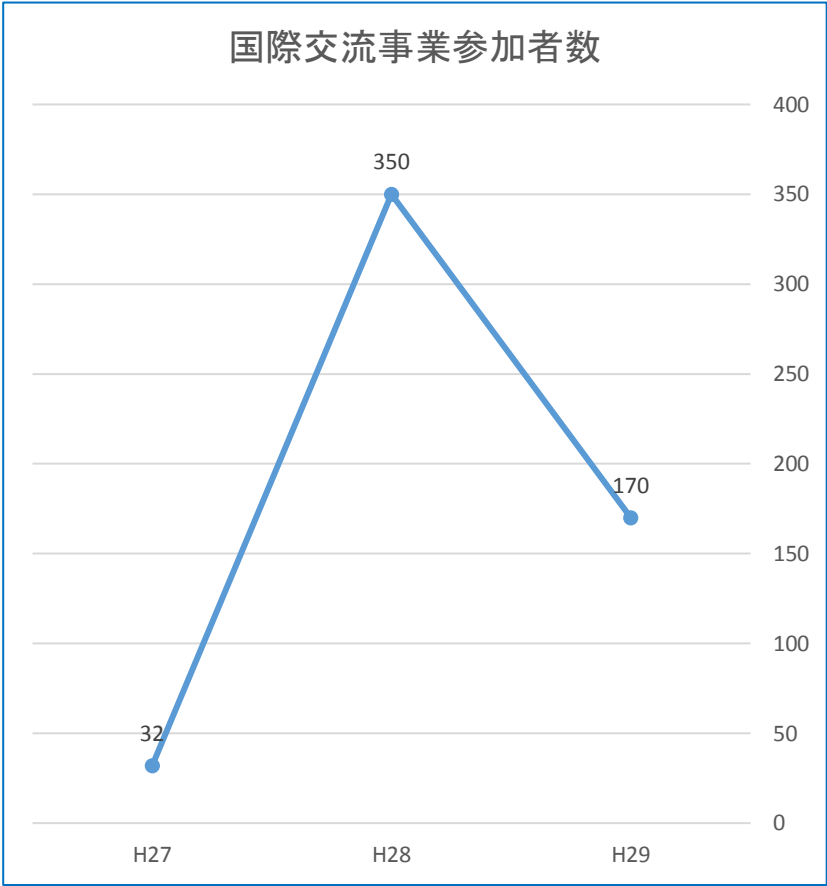
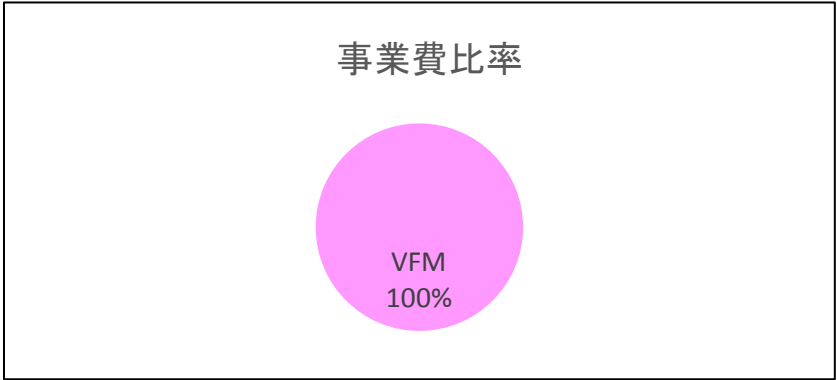
実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
学校教育課	A L T 事業	児童・生徒が英語力を身につける機会を設ける
市国際交流協会	英会話、韓国語講座の開催	市民が低料金で気軽にネイティブから英会話、韓国語を学ぶことができる

⑧ 施策の評価

項 目		評価	5：非常に高い 4：高い 3：どちらともいえない 2：低い 1：非常に低い
			判 断 理 由（なぜ、そのランクと評価したのか）
1	＜成果指標の妥当性＞ 施策の目的・成果を表現しているか？	3	相互派遣事業及び国際交流事業に多くの市民に参加していただくことが、国際交流の推進に繋がるため成果指標として妥当である。相互派遣事業を行った結果、参加者の意識がどう変わったか、今後の生活にどう結びつけていけるかが重要であり、調査結果を今後の指標とすることを検討したい。
2	＜事業構成の妥当性＞ 手段は最適か？	4	構成事務事業は、施策目的を達成するために適当なものであるが、国際交流ヴィラ管理運営事業を除き、青少年のための事業に特化している面がある。今後は、文化、歴史及び経済の分野などでも交流が進む事業を、検討していく必要がある。
3	＜施策の有効性＞ 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	現在は青少年の相互派遣事業しか有効な事業がなく、市国際交流協会の会員数も伸び悩んでいる状態である。協会独自事業も28年度は未実施であった。八塔寺国際交流ヴィラの利用者は前年に比して微増であり、引き続き情報発信に努め、利用促進する必要がある。
進行年度(H30年度)の取組内容 (課 題 解 決 状 況)		青少年の相互派遣事業では、7月に韓国に訪問団を派遣した。また、4月にオーストラリア、7月にアメリカからの訪問団を受入れ、市内の小学生を対象に交流を深めた。蔚山科学大学と連携に向かう覚書を交わしたため、蔚山科学大学備前センター設立を協議していく。国際交流協会の事業で、英会話、韓国語講座を継続実施する。	
翌年度(H31年度)の取組目標		青少年の相互派遣交流では、アメリカとオーストラリアへ派遣、韓国は受入れをする予定である。より多くの児童生徒が参加できるよう周知を図るとともに、交流後は報告会を開き、広くSNS等でも情報発信していく。蔚山科学大学との連携協定へ協議を進める。	
二次評価者コメント		青少年の相互派遣により、異なる歴史や文化を持つ同年代やその家族とコミュニケーションを取るこの事業は、これからの時代に必要なグローバルな人材育成に欠かせないものとなっています。派遣やホームステイ受け入れは、より多くの人に経験してもらう必要があります。全ての子どもたちにグローバルな感覚を浸透させられる事業展開や産業界の交流などを考えて行くことも必要です。	
役職 氏名		市長公室長 高山 豊彰	
		基本施策への 貢献度	
		4 やや高い	



事業費 0.2 億円
特定財源 0.0 億円



A 国際交流事業 事務事業評価シート【VFM】

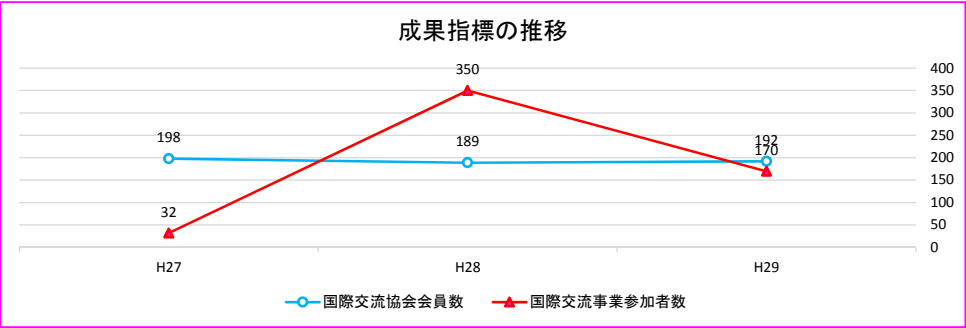
事業開始年次		昭和62年度・平成4年度		事業の終期	
総合計画	基本構想	03	協働「コミュニティ」	担当課（室）	企画課
	基本計画	04	地域での支え合いを基本とした協働を推進するまち	職・氏名	企画係長 吉田 祐介
	施 策	12	国際交流・地域間交流の推進	電 話	0869-64-1871

事業の成果	海外との交流人口を増やすことで市民の国際理解を促し、グローバルな視野を持った人材を育成する。
成果指標名A	国際交流協会会員数
成果に關与する他の要因	
成果指標名B	国際交流事業参加者数
成果に關与する他の要因	

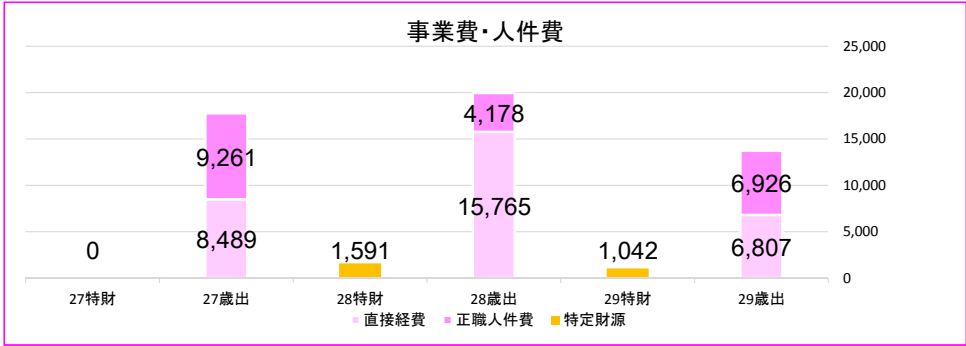
事業の説明	事業概要	文化交流協定や姉妹縁組に基づき、韓国(蔚山広域市東区及び蔚山広域市東区文化院)、オーストラリア(クレア&ギルバートバレー町)及びアメリカ(メンローパーク市)と児童生徒の派遣と受入を交互に行う。 【今年度の重点項目】《新規》韓国・蔚山広域市東区方魚津港再生事業への協力に係る職員派遣等を行う。 H29 受入：アメリカ、オーストラリア 派遣：韓国
	制度改正の状況	・H28：交流事業参加者負担金（派遣）補助率を50%→70%へ変更
	結果・実績	国際交流事業応募者数： H27 39名 H28 35名 H29 75名 ※募集者数 H27 46名 H28 36名 H29 36名

経費の説明	【報償費】：53,242円（記念品等） 【旅費】：166,270円（普通旅費） 【役務費】：30,000円（翻訳料） 【使用料及び賃借料】：13,272円（有料道路通行料、駐車料） 【負担金補助及び交付金】：6,524,132円（国際交流事業補助金） 【事業費合計】6,806,916円
-------	---

歳入の説明	その他： 1,042千円 （説明：ふれあい交流基金繰入金）
-------	-------------------------------



有効性分析	事業について、ホームページや広報等で情報提供しており、徐々にではあるが、国際交流協会の会員数も増加している。会員数や事業への参加者が増えれば、より多くの市民の国際理解が深まるため有効である。
-------	---



効率性分析（費用対効果）	コストを削減する努力はしているが、下がる余地は少ない。
--------------	-----------------------------

妥当性の判断	国際交流事業を通じて、市民の国際感覚の醸成につながっていることから、妥当と考える。
--------	---

今年度の重点取組	蔚山科学大学との協定締結と蔚山広域市東区方魚津港再生事業への協力のため、日生総合支所へ文化交流や人材交流の場となる「UCU備前センター」を開設する。
次年度の方向性	本事業を通じ、交流を深めることは重要だが、一過性のものとならないよう継続して関わっていただく仕組みづくりが必要である。ただし、一部の人だけに偏ることなく、すそ野を広げていくことにも配慮すべき。

B 国際交流ヴィラ維持管理事業 事務事業評価シート【VFM】

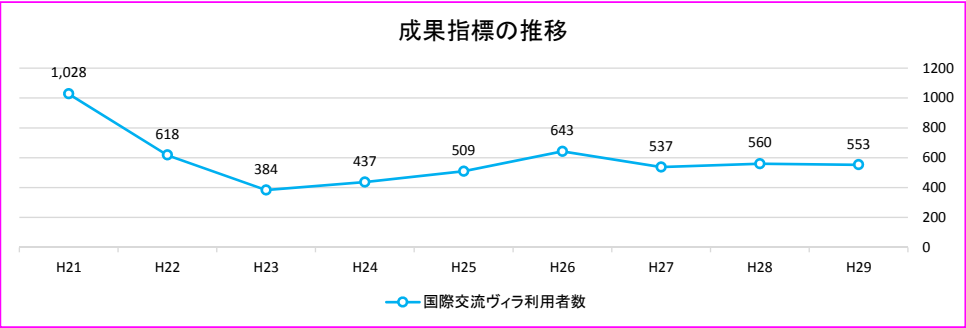
事業開始年次		昭和62年度・平成4年度		事業の終期	
総合計画	基本構想	03	協働「コミュニティ」	担当課（室）	企画課
	基本計画	04	地域での支え合いを基本とした協働を推進するまち	職・氏名	企画係長 吉田 祐介
	施 策	12	国際交流・地域間交流の推進	電 話	0869-64-1871

事業の成果	外国人等が備前市の農村の美しい風景を味わい、地域との交流を深めながら気軽に宿泊できる環境を整備する。
成果指標名A	国際交流ヴィラ利用者数
成果に関与する他の要因	
成果指標名B	
成果に関与する他の要因	

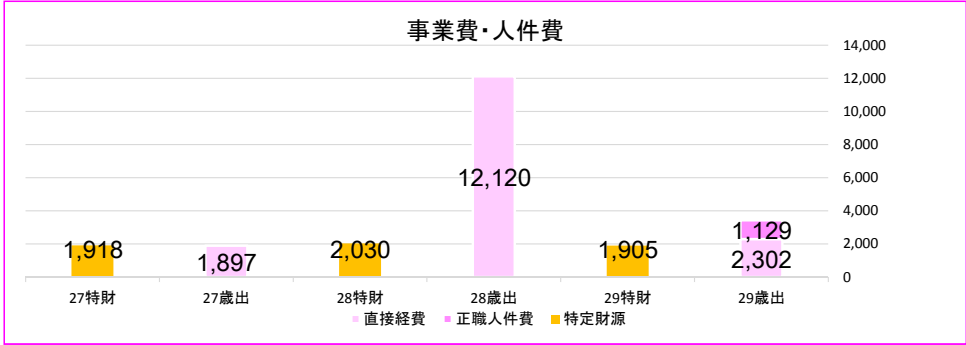
事業の説明	事業概要	備前市八塔寺国際交流ヴィラ（吉永町加賀美1193番地） 1泊 3,600円/人 貸切（8名まで25,700円、9人以上41,100円） 申込等については、岡山県国際交流センターを通じて行っている。
	制度改正の状況	H28 茅葺き屋根の補修
	結果・実績	国際交流ヴィラ利用者： H27 537人 H28 560人 H29 553人

経費の説明	【需用費】：763,413円（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料、賄材料費） 【役務費】230,154円（通信運搬費、火災保険料、手数料） 【委託料】：1,248,986円（消防設備点検委託料、ヴィラ管理委託料） 【備品購入費】：59,278円（施設整備備品） 【事業費合計】2,301,831円
-------	---

歳入の説明	受益者負担： 1,905千円 （説明：事業費の83%）
-------	-----------------------------



有効性分析	H22年以降、利用者数はほぼ横ばいである。広報や周知が不十分である可能性がある。
-------	--



効率性分析（費用対効果）	直接事業費については、受益者負担で8割以上を賄えるため、比較的、効率的といえる。しかし、集金や管理業務のためのヴィラへの移動に時間がかかるため、人件費は相対的に高額となっている。
--------------	---

妥当性の判断	周辺住民との国際交流を図るために設置された施設だが、日本の原風景を楽しむなど、観光目的に利用される場合がほとんどである。国際交流の観点からの妥当性は高いとは言えないものの、八塔寺をはじめとする吉永地域のにぎわいづくりに大きく貢献している点は考慮すべき点である。
--------	--

今年度の重点取組	広報の強化
次年度の方向性	目的にあった施設の管理体制を検討していく。